



小池家住宅

里山風景の広がる関地区は新里エリアのほぼ中央に位置する。鎌倉時代の磨崖仏など仏教遺跡の多く残る地区でもある。歴史を伝える自然豊かな地に「小池家住宅」がある。

140坪を超えると思われる木造二階建ての主屋を中心に、門、塀、二棟の蔵、物置を配し、新里町屈指の大型農家の形態を留めている。

この家を守るのが小池仍寿さん。合併前の新里村長を務めた方である。小池家はこの地区の旧家で、祖父も大正時代に村長を務めた由緒ある家柄だ。間口11間を超える主屋は、昭和の初め、祖父と父の時代に建設されたものという。

均整のとれた木造瓦葺の総二階、現在の住宅にはない規模の大きさである。建設された頃は、この地区でも養蚕が盛んに行われ、周囲は桑畑が広がっていた。小池家も養蚕を生業とし、二階部分は蚕室として昭和40年代まで使っていた。

小池家の一階は、玄関をくぐると広い土間、十畳の部屋が5部屋あり圧巻である。奥の客間の壁は鮮やかな「群青壁」。群青は高貴な色として大切な客をもてなす部屋の壁に用いられたという。小池家の歴史と暮らしを群青壁が鮮やかに彩ったに違いない。

敷地全体は約1200坪、屋敷林や池、10社を超える氏神様を祀り、ひとつの世界を形成しているかのような佇まい。現在、三世代7人の家族で守る典型的な大農家の姿は、日本の近代化の礎となった養蚕製糸業の歴史と重なり、織物のまち桐生にとってかけがえのない風景である。



所在地 桐生市新里町関537
所有者 小池 仍寿